

中東民主化ドミノ現象と行方

世界の最大関心問題になっている中東ですが、皆さんの頭の中に中東の国々の場所をちゃんとイメージ出来ますか？



チュニジアで端を発した中東の春

- ・女性警官から侮辱を受けた野菜売りが抗議の焼身自殺
- ・抗議の民衆が内務省前に集結
- ・ツイッター、フェイスブックを通じて、瞬く間にチュニジア中に抗議運動が拡大
- ・矛先はベンアリ大統領の独裁政治と腐敗した官僚機構に向けられる
- ・ベンアリ大統領の国外逃亡(民衆運動の勝利)

三つのポイント+ワン

1. 高学歴でありながら高い失業率への不満
2. 燻り続けていたやり場の無い怒り(パレスチナ問題、イスラム敵対視)
3. アラブ民族主義、イスラム的価値観への回帰願望
4. 政府の情報統制が生んだ市民情報ネットワーク

エジプトの場合

ムバラク大統領

アンワール・サダト大統領（イスラエルとの和平条約を締結し、ノーベル平和賞を受賞）暗殺後、エジプト大統領として30年間エジプトを統治し、中東における忠実なアメリカの番犬を演じてきた。



エジプトの人口は過去40年間に約倍に成った（約7,000万人）が、雇用の機会が拡大せず、若者達の不満が高まっていた。

自国のパレスチナ・ガザ地区に対する締め付けに対し、エジプト人の内面的な遣り切れなさ、ムバラク政権への反感、反イスラエル・反アメリカ感情が頂点に達していた。

ムバラク大統領周辺および軍の高官の厚遇、利権独占、汚職に対する不満が広がっていた。

リビアの場合

アラブの狂犬と言われた男、独裁者として40年以上にわたりリビアを私物化してきた。



故ナセル大統領の再来として自己倒錯に陥っている。憲法も法律も明文化せず「自らが法律」として、自筆のグリーンブックなるものを唯一の判断基準として定めている…即ち、閣僚も政治も私物化している。反米を掲げ、世界の非同盟諸国の雄を自認しているが、言動は極めて、粗暴で幼稚的にも関わらず、国際社会が「愛すべきキャラクター」としてチヤホヤし過ぎた。身辺の警護には余念が無く、秘密警察や情報統制により反政府的な動きや人物には徹底的に弾圧してきた。

シリアの場合

バッシヤール・アサド大統領は世界で一番年若くして大統領職に就いた人物であるが、父親のハーフェズ・アサド大統領からの世襲人事であった。その為に、アサド家2代にわたるシリアの統治が40年以上続いている。



年若くして大統領になったこともあり、未だに大シリア主義を掲げる旧体制派に囲い込まれ、大統領と言いながら、ひな壇に祭り上げられた感じは否めない。アサド家はシリアでは少数派に属するシーア派系のアラウィー派である為に、2代にわたる世襲統治に対する反感が強まっていた。父親の代から続いている「非常事態宣言」により言論統制を徹底してやって来た故に、欧米化が進んでいる若者世代に不満が強まっていた。反米・反イスラエルを掲げながら、その実、イラクやパレスチナに対する冷淡な対応に国民感情は苛立っていた。

イエメンの場合

アラビア半島では最も古典的なイスラム文化の国で、シーア派とスンニ派の割合がほぼ拮抗している。

サレハ大統領はシーア派に属する少数宗派に属し、北イエメン大統領となってから、南イエメンを武力で統一した。



イエメンはアラビア半島の中にあって唯一産油国ではない為に、国民の平均所得は低く、失業率も近年40%近くになっていた。

古典的なイスラム文化を規範として来たために、若者の間では反感が強まっていた。

ソマリアと海峡を隔てて隣接している為に、アラビア半島のアルカイダの拠点ともなっていた。

最近、反体制派側からの砲撃で負傷し、治療の為に国外に出ているが、未だに退陣の意思は示していない。

サウジアラビアの場合

厳格なイスラム教の国であり政教一致であり、王族が圧倒的な支配権限を持っている。
アブドラ国王は87歳の高齢にも関わらず、後継者は決まっていない。



圧倒的な王族の権限下で若者の不満が拡大している。特に、人口増加率が高く、若年層の高学歴化が進んでいるにも関わらず、雇用の機会が少ない。石油利権に絡んでの王族の親米路線に反感を持つ者が増えている(オサマ・ビン・ラディンその他、アル・カイダメンバーの中にもサウジ人が多い)。宗教警察の力で、反体制的な動きを反イスラム的な動きとして徹底的に取り締まっていることも、親米路線(=反イスラム的)との矛盾を来たしている。

イランの場合

イラン革命以降、特にテヘランのアメリカ大使館占拠事件およびアメリカの奇襲作戦の失敗以降、アメリカにとっては最も忌まわしい国となった。アフマド・ネジャド大統領は2期目当選を成し遂げ、庶民派の大統領として貧困層・農民層から支持があつた。



アメリカのイラン敵視を逆利用して、反米・反イスラエル強硬政策を武器にして、国民からの支持を得てきた。

イスラム世界においては少数派であったシーア派の勢力拡大を図り、中東地域における指導的地位の奪還を目論んでいると捉えられており、スンニ派大国であるサウジ・アラビア等湾岸産油国から警戒されている。

公然と核開発を推進しており、西側諸国、取分け、イスラエルはイランの核兵器保持を懸念している。

中東で何が起こるか！？

考えられるシナリオ1

サウジ・アラビアに民主化要求(王制妥当)のデモが拡大し、原油の輸出が滞り、石油価格が高騰し、世界経済が大混乱する。

考えられるシナリオ2

イスラエルがイランの核開発施設を単独攻撃し、第5次中東戦争が勃発する。

考えられるシナリオ3

中東和平が合意され、新秩序の中で中東経済復興銀行(仮称)が設立され、中東地域の開発事業(新エネルギー、雇用創出)が国際社会の後押しで推進される。